

道徳授業研究協議会

3年 題材「0点」

H29. 9. 29

1. 授業内容

- ・ 導入では、正直は何かを考えさせた。「うそをつかないこと」「本当のことを言うこと」という児童の意見が出た。
- ・ 本資料を聞き、『もし、自分だったら、お父さんに「テストを見せて」と言われたらどうしますか』という発問に対して、見せる（90点を先に見せる、0点を先に見せる）か見せないか、自分の立場をワークシートに記入し、その理由を発表した。
- ・ 見せるならばどんな言葉でお父さんに言うか、見せない場合はお父さんにテストのことを聞かれたら何と言うかを考え、役割演技をした。
- ・ 他の児童の意見を聞いたり、役割演技をしたりして、自分の立場に変化があったかどうかを考えた。
- ・ 授業を振り返り、ワークシートに感想を記入し、発表した。



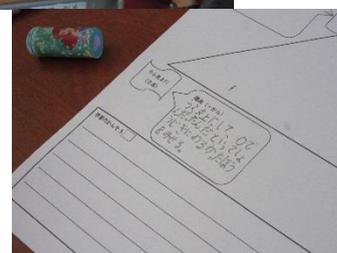
2. 研究協議会より

(1) 読み語りについて

- ・ 資料については、教師がかなり暗記しており、児童の様子を見ながら読み進めていったので、児童は資料の世界にどんどん入っていった。話の内容をよく理解していた。
- ・ 「自分だったらと考えてみてください。」という声かけを教師がしたので、児童も自分事として捉えやすかった。

(2) 主発問・切り返しについて

- ・ 主発問は、児童の発達段階に合っていた。主発問から始めの考えへの流れがよく、児童が葛藤できる内容だった。
- ・ 切り返し発問について、指導案では、児童の発言を考えた上でどのような切り返しをしていくのかよく考えられていた。しかしながら、授業の中では、それが十分に生かされず、十分に児童同士の意見の交流が行われなかった。
- ・ 児童の心の葛藤を引き出し、立場に変化が生まれるような切り返しをし、話し合いを深められるとよかった。
- ・ 「どうして?」「なぜ?」と、児童に返し、みんなで立場について考え、ねらいに迫れるとよかった。



【ワークシート】

(3) 役割演技について

- ・ 役割演技は、児童にとって理解しやすく、やりやすい場面設定だった。何をしたらよいのか戸惑う児童はほとんど見られなかった。
- ・ 役割演技後、どんな気持ちだったか、確認したことはとてもよかった。

- ・ 「見せない」の対応について、役割演技でどうするかを考えておくべきだった。見せないことに対して、少し後ろめたさを感じるような教師の演技が必要だったのではないかな。
- ・ 役割演技を教師と児童でする場合、教師はどう対応したら、ねらいに迫っていけるのか、児童の気持ちがどう揺さぶられるのかなど、しっかりと考えておくことが大切。児童の反応を見ながら、気持ちを引き出せるようにしたい。



↑
児童同士

【役割演技】

←
教師と児童

(4) 板書・ワークシートについて

- ・ とても丁寧な字で、よくまとめられていた。主発問の分かりやすさ、心情メーターの使い方、最後に正直の花が咲くというまとめ方、どれもとてもよかった。
- ・ ワークシートには、自分の意見がしっかり書けていた。題材や発問が発達段階によく合っていたからだと思う。児童が自分事として捉えられたのは、教師の言葉がけが大きい。
- ・ 役割演技後の立場を再度表す場面では、もう少し、教師の話や補足があった方が、迷っている児童には取り組みやすかったと考える。

(5) その他

- ・ 教師と児童はとてもよい関係を築けていることが授業を通して伝わってきた。教師の口調・表情・人権意識のある対応などが、信頼関係を生み、素直な意見が出る授業につながっていると思う。
- ・ 学習規律がよくできていて、落ち着いた中で授業が進んでいった。質問もしやすい雰囲気だった。
- ・ 話し合い、役割演技などを通して、児童の思いや考えを深めていきたいという教師の思いが強く、どうしてもたくさんの活動を指導案の中に入れてしまう。指導案には、切り返し発問がたくさん書かれていても、時間に追われてそこまで深めることなく過ぎて言ってしまうこともある。改めて45分でおさめる難しさを感じた。60分間で授業を考えたり、次の授業で前時の続きから行ったりすることも必要になってくるのではないかな。
- ・ 今回の授業では、『見せる』立場でも、見せ方もいろいろあり、また、見せるときの思いもいろいろある。



【研究協議会】

どんな題材でも、ねらいに迫れるよう、どんなキーワードが出たらよいのか、どうすればそこに近づいていけるのか、授業中も柔軟に考えながら進めて行かなくてはいけない。

